

奈路小学校

63年度に移転改築

奈路地区 市政懇談会



地元の抱える問題や市政全般について幅広く話し合った

二月四日夜、公民館事業の一環として、奈路公民館（川村雪子館長）で市政懇談会が開かれました。地元からは二十一人が参加。市からは小笠原市長、浜田副助役、関係課長らが出席して、地元の抱える問題や市政全般について熱心に話し合いました。

懇談会では川村館長のあいさつの後、小笠原市長が市政の概略について「市長就任時には空港問題、財政再建、同和対策が大きな三つの柱だったが、現在はそれに加えて教育施設の充実、企業誘致による産業の振興の五つを柱に立て努力している」とあいさつし、話し合いに入りました。

話し合いの

内容は・・・

○奈路小学校の移転改築を早急に。また、体育館の建設やグラウンドにナイター照明設備の設置を望む。
●新しい学校の用地も出来上がっている。教育委員会としては六十三年度に校舎と給食棟の移転改築をしたいということで、現在財政当局と折衝中だ。教育委員会が描いている構想は、鉄筋コンクリート二階建てで総面積が七二〇

平方メートル、普通教室三、特別教室音楽室、理科室、図書室、家庭科室など、それに給食棟を考えている。設計については、学校や地区の皆さんの意見も十分採り入れたい。

体育館の建設も同時にやりたいが、市内にはまだ体育館のない学校が三校あり、また校舎が本造で早急に改築しなければならぬ学校が四校あるので、体育館については今しばらく辛抱願いたい。

ナイター照明設備については、体育館の位置や照明の角度、照明塔の設置場所などを総合的に検討しなければならぬので、引き続き研究していきたい。

○財政上、また合理化のため支所の廃止もやむを得ないと思うが。
●行政改革の一つの方針の中で、領石、岡豊、十市の三支所は廃止することを打ち出し、これに向かって全力を尽くすことを再確認し

ているが、最終的には議会の議決を得なければならない。客観的にみれば、奈路地区などは市役所から遠い所なので支所の存続が必要であるということになるが、その奈路地区が廃止に同意しているというところは、それより近い所はいろいろな面からみても廃止の条件が整っているのではないかと考える。しかし、そのとおりにはいかないのが現状で、なかなか理解してもらえない地区もあり、今後も努力していかねばならない。

○恒久的な処理場を早く建設してほしい。

●恒久的な処理場を早く建設するという考えで望んでいるが、設置場所についてその地域の皆さんの全面的な同意を得なければならないことやそのほかにもいろいろな問題があり、すぐにはいかないが積極的に取り組んでいる。新処理場建設までの暫定的な処置として黒滝で処理しているが、もう少し近代的な設備をということとで昨年から新施設の試運転をしており、今月末に受け取ることになっている。処理後の水質については大変きれいになって、問題はなく、もちろん国の基準は達成している。

○廃棄物などは区分して、ステーションへいつでも出してよいようにすると、行政としては対処するのは難しい。衛生委員会の中でも常に問題になるが、現在の考え方は、自分たちの地域の環境は自分たちで守ってよくしていただき、行政も全面的にバックアップするという形が最近の在り方になってきている。行政だけでなく住民の方々の協力が得られないと、ごみ問題、環境問題などは解決しないというのが実情だ。ルールを作ってやらなければ、ステーションは大変さなくなる。ぜひ皆さん方にも協力を願いたい。

道路へのボーイ捨ては、積極的な啓発活動をする以外に端的に効果が見れる方法はないのではないかと。この件についても皆さんの協力をお願いしたい。

そのほか、「県道南国伊野線の改修工事を早急に」「山間地域の農業対策を」「山崩れの危険箇所があるのでなんらかの手だてを」「同和対策事業は法の期限内に」「奈路公民館の屋根がわらのふき替えを」などの要望や意見が出ていました。